

1280 SFX

取扱説明書 目次

項 目	ページ
《 はじめに 》	
◆スペシャル機能をONにするには	1
◆ノーマル機能にするには	1
《 基本機能 》	
①メモリーの選択方法	1
②群番号の入力	2
③CHメモリーの呼び出し	2
④スペシャルメモリーの呼び出し	2
⑤CHメモリーおよびスペシャルメモリーへの記憶	3
⑥ダイレクトセット	3
⑦送信・受信モードの切り替え	3
⑧送信パワー・受信感度の切り替え	3
⑨待ち受け群番号の設定・解除	3
⑩群番号表示とCH表示の切り替え	4
⑪連続リコール	4
⑫プライオリティ	4
⑬広帯域モード	4
《 スペシャルファンクション I 》	
◆MODE キーによる機能設定	5
[1] モニタースキャンスピードの切り替え	5
[2] 全モードスキャン	5
[3] CHメモリースキャン	5
[4] 空CHスキャン	6
[5] 全モード待ち受け	6
[6] 自動モニター機能	6
[7] 留守番機能	6
[8] [9] PTT自動リコール	6
[10] 多群番リコール	6

[1] タイマーリコール	6
[2] ATIS信号のカット	6
[3] 群番号の解読	6
[4] 群番号の自動作製	6
[5] CHの復元表示	7
[6] 免許番号待ち受け	7
[7] 発呼信号カット	7
《 スペシャルファンクション II 》	
◆MODE キーによるその他の機能	7
[1] 群番号・CH・コピー	7
[2] 免許番号の表示・コピー	7
《 チャンネル (CH) およびモードについて 》	8
《 特定群番号について 》	8
《 留守番機能について 》	8
《 モニター状態について 》	9
《 キー機能のまとめ 》	10
《 表示ランプについて 》	11

《 は じ め に 》

本機は、スペシャル機としての機能の他に、ノーマル機としても使用できます。

◆スペシャル機能をONにするには

1. 群番号入力と同様に、ノーマル機の操作で暗証番号（5桁）を入力します。
（メモリー番号はどこでも可）
2. 最後の桁を入力後、**SET** キーではなく **MODE** キーを5秒以上押し続けてください。

SP-ON と表示され、スペシャル機能が使用できるようになります。

◆ノーマル機能にするには

待ち受け中に **END** キーを5秒以上押し続けてください。 **SP-OFF** と表示され、ノーマル機能が使用できるようになります。この場合、申請済みのROMがセットされていない時は、送信できません。

Ⓢ 本機のノーマル機能は、オリジナルのPR-900機と完全にはありません。

この取扱説明書は、スペシャル機能についてのみ書かれています。ノーマル機能についてはPR-900の取扱説明書をご参照ください。

《 基 本 機 能 》

機能設定なしで使えます。

①メモリーの選択方法

本機は、次の3種類のメモリーを持っています。

群番メモリー

ノーマル機と同様、1～9、O、L、E. の12個のメモリーがあります。
ただし、L、E. のメモリーにはあらかじめL-CODE、E-CODEが
セットされており、書き込みはできません。

CHメモリー

0～9の10個のメモリーがあります。モードとCHを対で記憶します。

スペシャルメモリー

0～9の10個のメモリーがあります。群番号・モード・CHを組で記憶し
ます。また留守番メモリーとして使用できます。

本機では、これらのメモリーのうちどれが選ばれているかということ（以下メモリーモードと言う。）に
大切な意味があります。

・メモリー（メモリーモード）は **G-NO** キーを押すごとに

→群番メモリー→CHメモリー→スペシャルメモリー→ のように順次切り替わります。

・表示は

群番メモリーモードの時	MEMO1	} がそれぞれ点灯します。
CHメモリーモードの時	MEMO2	
スペシャルメモリーモードの時	MEMO3	

・それぞれのメモリー内容は○キー・●キーで呼び出します。

モニター中・通話中はメモリー内容を読み出しただけでは、現在の群番号・CHのままでは、群番号・モードとCHは確定しません。P T Tを押すと元に戻ります。読み出した状態に移るには、**G-NO** キーを1秒以上押してください。

ただしモニター中は、メモリーの内容を読み出した直後にP T Tを押すことにより、メモリーの内容で通話に入ります。

⑤制御CH (CH=01) で通話中に他のCHに移ると、制御CHには戻れなくなりますので、制御CHはなるべく使用しないでください。

②群 番 号 の 入 力

- A. **G-NO** キーで メモリーモードを群番メモリーにします。
- B. **0**キー・**0**キーで メモリー番号を合わせます。
- C. **SET** キーを チョイ押しすると、群番号の左端が点滅します。
- D. **0**キー・**0**キーで 数字を合わせます。
- E. **SET** キーで その数字が確定し次の桁へ移ります。同様に右端の数字まで入力します。

1 1 2 3 4 5

↑
メモリー番号 群番号

群番号として、0～9の数字以外にA～Fの英字で書き込みができます。

上記④の操作中、マイクの**SHIFT**キーを押すとA～Fが**0**キー・**0**キーで選べるようになります。再度**SHIFT**キーを押すと0～9の数字に戻ります。

③CHメモリーの呼び出し

G-NO キーでメモリーモードをCHメモリーにした後、**0**キー・**0**キーで呼び出します。

例 9 1 130 メモリー番号9にダウンモード1の130CHが書き込まれている。

通話中・モニター中にそのCHへ移るには、呼び出し後 **G-NO** キーを1秒以上押してください。

④スペシャルメモリーの呼び出し

G-NO キーでメモリーモードをスペシャルメモリーにした後、**0**キー・**0**キーで呼び出します。

例 0 50 モード・CH

↓
P 1 2 3 4 5 群番号

↑ プロテクト設定時：P 続いて表示されます。

留守番記憶有りの時：r

その他の他：メモリー番号

通話中・モニター中にその群番号・CHへ移るには、呼び出し後 **G-NO** キーを1秒以上押してください。

⑤CHメモリーおよびスペシャルメモリーへの記憶

通話中・モニター中に現在のモード・CH・群番号を記憶できます。

- ①通話中・モニター中に **SET** キーを1秒以上押します。 **SET---** が1秒以上表示されます。
- ② **G-NO** キーで CHメモリーまたはスペシャルメモリーを選択します。
- ③ **●** キー・ **○** キーで 記憶したいメモリー番号に合わせます。
- ④ **SET** キーを押すと 選択したメモリーに記憶されます。
(ただし、群番号はスペシャルメモリーにのみ記憶。)

⑥ダイレクトセット

CH固定・移動

待ち受け中・モニター中・通話中にダイレクトに指定したCHに移ることができます。

- ① **TX・RX** キーを1秒以上押します。
1 70 現在のモード・CHが表示されます。
点滅します。
- ② **●** キー・ **○** キーでモードを選び **SET** キーを押します。CH表示が点滅します。
- ③ **●** キー・ **○** キーでCHを選び **SET** キーを押します。指定したモード・CHへただちに移ります。

⑦送信・受信モードの切り替え

MODE キーを押す。チョイ押しごとに

→ 158CH → 80CH → 1 分 → 時計 → のように順次切り替わります。

⑧送信パワー・受信感度の切り替え

TX・RX キーを押すごとに

Hi-POW	↓	Dx-RX	のように順次切り替わります。
POW-Low	↓	RX-Lo	
POW-Low	↓	Dx-RX	

⑨待ち受け群番号の設定・解除

すべての群番メモリーで待ち受けができます。目的の群番メモリーを呼び出した後、 **SET** キーを1秒以上押します。

501234

↑待ち受け設定されている時、メモリー番号が点滅します。(待ち受け解除時は点灯)

SET キーで設定・解除が交互に行えます。

⑩群番号表示とCH表示の切り替え

通話中に **SHIFT** キーを押すと、群番号とモード・CHを交互に切り替えて表示させることができます。

⑪連 続 リ コ ー ル

通話中 **REMOTE** キーを押すと、押している間リコールを繰り返します。

⑫プ ラ イ オ リ テ ィ

ある特定のCHをプライオリティCHとして、常に監視することができます。待ち受け中・固定モニター中・通話受信中に、約5秒おきにそのCHの入感状態を調べに行きます。(プライオリティCHモニター通話中でもプライオリティCHをサブCHとして、現在のCHとの間を自由に行ったり来たりできます。ただし、サブCHではATIS信号は送出されません。)

SET キー → 現在使用中のCHをプライオリティCHとして記憶。

MODE + **MODE** → プライオリティCHモニターON・OFF
1秒以上押し (先にプライオリティCHを記憶させること。)

MODE + **MON** → サブCHへ移る。元のCHに戻る。
1秒以上押し

PRY 遅い点滅時：プライオリティモニターがONとなっていることを表します。

PRY 速い点滅時：プライオリティCHに入感があることを示します。

SUBCH の表示でサブCHにはいったことを示します。

⑬広 帯 域 モ ー ド

パーソナル無線機としての機能を離れ、広帯域のラジオとなります。

MODE → + **F 10 00** + **SHIFT** → **- - 7 - -**
1秒以上 機能設定表示 エリア番号
例 903.0125MHz

903012 点灯時0.5KHzを意味します。
周波数表示

次表のように0～9のエリアにそれぞれ周波数が割り当てられています。一つのエリア内を12.5KHzステップで連続サーチします。

○キー・○キーで

エリア選択。

REMOTE キーで

サーチ開始。入感があればその周波数で止まります。

END またはマイクの **END** キーで

サーチ終了。

通常のパーソナルモードに戻るには **END** キーを押します。

エリア割り当て表

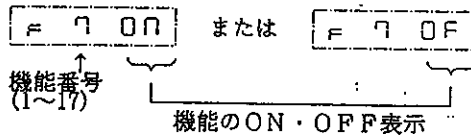
エリア	割り当て周波数(MHz)	基地局・移動局
0	843.000 ~ 845.9875	新割り当てのセルラー系基地局
1	846.000 ~ 859.9875	
2	860.000 ~ 869.9875	セルラー系自動車電話の基地局
3	870.000 ~ 884.9875	N T T 自動車電話の基地局
4	885.000 ~ 897.9875	
5	898.000 ~ 900.9875	新割り当てのセルラー系移動局
6	901.000 ~ 904.9875	
7	905.000 ~ 914.9875	
8	915.000 ~ 924.9875	セルラー系自動車電話の移動局
9	925.000 ~ 939.9875	N T T 自動車電話の移動局

②無線機の性能により使用できる範囲は限定されます。

《スペシャルファンクション I》

◆MODE キーによる機能設定

MODE キーを1秒以上押すと、下記のように表示され機能設定が行えます。



○キーまたは○キーで機能番号を選択します。

SET キーを押すたびにON/OFFが切り替わります。

END キーで設定終了

1 モニタースキャンスピードの切り替え

ON : 低速スキャン

OFF : 高速スキャン

2 全モードスキャン

モニタースキャンの時、すべてのモードをスキャンする機能です。

ON : 全モードスキャン

OFF : 単一モードスキャン

3 CHメモリスキャン

モニタースキャンの時、CHメモリーに記憶されているすべてのCHをスキャンする機能です。

ON : CHメモリスキャン

OFF : 通常(順次)スキャン

全モードスキャンが ON : 各モードごとに、各CHメモリーに記憶されているCHをスキャン

全モードスキャンが OFF : 各CHメモリーに記憶されているCHおよびモードをスキャン

4 空 CH スキャン

モニタースキャンの時、空いているCHで止めるようにします。あくまでも、本機の入感レベルにより判断しますので、速くで使用している場合またはブレイクタイムの時など、使用中のCHで止まることもあります。

ON : 空いているCHでスキャンがとまります。

OFF : 使用中のCHでスキャンがとまります。

5 全モード待ち受け

待ち受け中、すべてのモードの制御CHを高速スキャンしながら待ち受けます。一度に8つの制御CHを監視している訳ではありませんので、着呼率は悪くなります。全モード待ち受けをしている局を呼び出す

時は、連続リコールを使用するとよいでしょう。設定がONの時 **[E]** ランプが点灯します。

6 自動モニター機能

待ち受け状態の時、3分ごとに全CHメモリスキャンを行う機能です。各CHを15秒間モニターし、全CHを終了すると、待ち受けに戻ります。モニター中のCHを固定するには **[MON]** キーをチョイ押ししてください。

7 留守番機能

留守中、呼び出しを受けた群番号・CH・モードを記憶する機能です。

スペシャルメモリーを利用しますので、記憶したCHに移動・呼び出しを行う場合は基本機能④をご参照ください。

8 9 PTT自動リコール

PTTを離れた時、自動的にリコール信号を送信する機能です。

機能 **[8]** ON 機能 **[9]** OFF → 1分以上PTTを握り離れた時リコール
機能 **[8]** ON 機能 **[9]** ON → PTTを握り離れた時常にリコール

10 多群番リコール

待ち受け設定されている群番号メモリーの群番号すべてリコールする機能です。

11 タイマーリコール

通話中、3分ごとに自動的にリコール信号を送信する機能です。

12 ATIS信号のカット

PTTを握った時・離れた時・通話中、1分ごとに送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。
(リコール時には必ずATIS信号が送出されます。)

13 群番号の解読

受信したATIS信号の中の群番号を表示します。

14 群番号の自動作製

PTTを握った時、現在のモードおよびCHを群番号とします。

00125
↑ ↓
モード CH

ただし、発呼時の群番号は通常とおりです。

15C H の復元表示

通話中の表示を群番号ではなくCH表示にします。ただし、マイクの **SHIFT** キーを使用すれば、群番号とCHを自由に切り替えて表示させることができます。

16 免許番号待ち受け

待ち受け中、自局の免許番号と同じ局からの呼び出しを受け付けます。群番号に関係なく、A T I S 信号の中の免許番号だけに応えます。なお、免許番号で待ち受けしている時は、群番号の待ち受けは無効になります。設定がONの時は **L** ランプが点灯します。

トット信号呼発

本機能がONの時は、待ち受けから発呼しても、1回目の発呼信号は送信しません。呼び出し状態（群番号とCHが交互表示中）でPTTを握った時に発呼信号を送信します。ただし、待ち受け時にPTTを握りっぱなしで発呼した時は、通常と同様に発呼信号を送信します。設定がONの時はT-TIMEランダム点灯もします。

《スペシャルファンクション II》

◆MODE キーによるその他の機能

MODE キーを1秒以上押すと、機能設定の表示になります。（スペシャルファンクション I 参照）
この状態で、以下の動作をさせることができます。

1群番号・CH・コピー

群番号解説設定のON・OFFにかかわらず、受信したATIS中の群番号・CHおよびその時のモードをスペシャルメモリーにコピーします。

MODE + G-NO → COPY + キーまたはキー + SET
1秒以上
スペシャルメモリの選択

2 免許番号の表示・コピー

受信したA T T S中の免許番号や自局の免許番号を表示できます。また、相手の免許番号を自局の番号としてコピーできます。

MODE + TX・RX → 000 → 自局番号表示
1秒以上 チョイ押し

→ TX・RX → $r \in \mathbb{C}$ → 相手局番号表示
 チョイ押し

+ TX・RX → COPY → 相手局番号を自局の番号として取り込み表示
1秒以上

END キーで終了します。

免許番号を読みとった時に表示される12桁のアルファベットを含む数字は、免許証の10桁の免許番号とは違います。免許証に書かれた10桁の数字はいわゆる短縮番号のようなもので、実際に出力される免許番号は12桁のアルファベットまじりの数字になります。

Ⓢ一旦ノーマル機能にするとオリジナルの免許番号に戻ります。

《チャンネル(CH) およびモードについて》

PR-900機は数字キーがないため、ワンタッチでCHを切り替えるという訳にはいきません。そこでよく使用するCHは、CHメモリーやスペシャルメモリーにセットしておき、それら呼び出して使います。

(基本機能①・③・④・⑤参照)

また、直接モードとCHを入力して切り替えることもできます。(基本機能⑥参照)
チャンネルの切り替えは、待ち受け中・モニター中・通話中いずれの状態からでも可能です。

モード割り当て表

モード0	ノーマルモード	903~905MHz
1	ダウンモード	901~903MHz
2	ダブルダウンモード	899~901MHz
3	トリプルダウンモード	897~899MHz
4	4thダウンモード	895~897MHz
5	5thダウンモード	893~895MHz
6	6thダウンモード	891~893MHz
7	呑底モード	889~891MHz

ノーマルモード以外は、本来のパーソナル無線用に割り当てられた周波数帯域ではありません。使用される方は、充分自覚をもって運用してください。

モード4、5、6、7は通常の周波数帯域より大変離れているため、本機のパフォーマンスにより使用できない場合があります。できるだけ使用しないでください。

《特定群番号について》

A、b、L、H、P、Eを頭文字にした特定群番号が設けられていますが、実際にはそのような文字コードがATIS信号の群番号として送信される訳ではなく、数字の0から9までと英字のAからFまでの組み合わせで表現された群番号が送信されます。

F0006 → R-cod
F0009 → b-cod
F0005 → L-cod
F0003 → H-cod
F0000 → P-cod
F0000 → E-cod

このような構成になっています。
規則性としては先頭がFであること。
E-codを除いて中間が000であること。

そこで、本機では勝手に特定番号を増やしてしまいました。

F0001 → n-cod (Nコード)
F0002 → y-cod (Yコード)
F0004 → r-cod (Rコード)
F0007 → t-cod (Tコード)
F0008 → G-cod (Gコード)
F000A → U-cod (Uコード)
F000B → -cod (コード)
F000C → C-cod (Cコード)
F000D → d-cod (Dコード)
F000E → F-cod (Fコード)

これらの群番号は、あらかじめ記憶されている訳ではなく、その文字コードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されます。AからFの英字入力方法は、基本機能②を参照してください。

《留守番機能について》

A、留守中、呼び出しを受けた群番号・CH・モードを記憶する機能です。

- D. 留守番機能を設定します。

1 秒以上

ONで設定

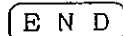
G-NO

1秒以上 プロテクトON

- G. 留守番メモリーが満杯になると、以後は記憶されません。

- H. 留守番記憶のクリアは、一度留守番機能が解除された後、再度留守番機能が設定された時に一括してクリアされ、ランプが消灯します。

《モニター状態について》



MIC END

本機では、モニター中の状態遷移がシンプルになりました。スキャン中に入感があると、そのCHでスキャン一時停止となり、15秒経つと再びスキャンを開始します。モニターを続けたい時は、一時停止中に

MON キーをちょい押しするか、**SHIFT** キーを1秒以上押します。

自動モニター中は、スキャン一時停止に15秒間とどまり、続いて次のCHへ移ります。すべてのCHメモリーに記憶されているCHをスキャンすると待ち受け状態に戻ります。

また、スキャン一時停止中に **MON** キーを押すと固定モニターになり、自動モニターは終了します。

《キー機能のまとめ》

	待機中・スキャン中		モニター中・通話中	
			ちょい押し	1秒以上押し
G-NO	メモリー(メモリー・オート)の切り替え		メモリー(メモリー・オート)の切り替え	メモリーの群番・CH・オートに移る
S E T	群番メモリー・オートの時 群番号入力	①群番メモリー・オートの時、待ち受け設定または解除 ②スペシャルメモリー・オートの時、メモリー・プロテクトON・OFF	プライオリティCH記憶	CHメモリー・スペシャルメモリーの書き込み
M O N	モニターへ	同 左	モニター中は固定モニター 通話中はCH移動	モニター中は モニター・スキャンへ
MODE	送信・受信モードの切り替え	スペシャルファンクション		スペシャルファンクション
T X・R X	送信パワー・受信感度の切り替え	CH・ダイレクトセット	送信パワー・受信感度の切り替え	CH・ダイレクトセット
S H I F T	メモリー番号ダウン	同 左	モニター中はリハースステップ モニター・スキャン中はオート・ダウン 通話中はCH表示・群番表示の切り替え	モニター中は 固定モニターへ
REMOTE	モニターへ	モニターへ	モニター中はCHステップ モニター・スキャン中はオート・アップ 通話中はリコール	モニター中は モニター・スキャンへ 通話中は 連続リコール

待ち受け状態からP T Tで発呼した時は、次の表のような設定で発呼します。

メモリー・モード	群 番 号	モ ニ タ ー	待 機 中
群番メモリー	選択されている群番メモリーの群番号	最後に使用したモード	乱 数
CHメモリー	最後に表示されていた群番号	選択されているCHメモリーのモード	選択されているCHメモリーのCH
スペシャルメモリー	選択されているスペシャルメモリーの群番号	←選択されているCHメモリーのモード	←選択されているCHメモリーのCH

《表示ランプについて》

スペシャル機能で使用する特殊な表示は次のとおりです。

	消点 灯：群番号待ち受け 灯：免許番号待ち受け
	消点 灯：単一モード待ち受け 灯：全モード待ち受け
T-LIM	消点 灯：発呼信号 通常 灯：発呼信号 カット
PRY	消点 灯：プライオリティCHモニター OFF 遅い点滅： " ON 速い点滅：プライオリティCHに入感有り 灯：77CH(プライオリティCH)に入ったことを示す。
	点滅 灯：PLLアンロック (広域帯モードのみ) 滅：留守番記憶有り